

被布を着たりしてゐた。

◇  
チャリ物が専門だから自作が多い。元治元年に三世長門が死んだ時にも『朝嵐冥途の飛脚』と題して長門の冥途物語といふやうなものを上演して喝采を博した（北の新地の芝居十月興行）また北國で尾上多見藏を助けた話といふのや、自分が武士に變装した喜劇物などもある。

◇  
文化二年に生れて明治十四年十月二十二日、八十二歳で歿する時、卒中で、グウ／＼と大駢をかいてそのまゝ死んでしまつたといふいかにもチャリ語りの終焉らしい最期だつたといふことだ。

◇  
京都の五條阪の産れで、大阪では大寶寺町中の町に住んでゐた。

## チャリ淨瑠璃のこと

### 語つた人、作つた人

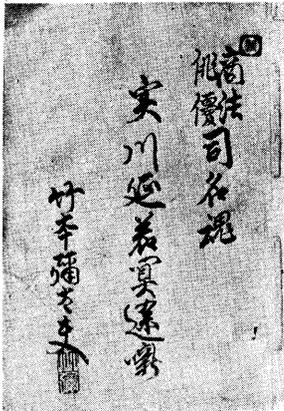
チャリ淨瑠璃の起源だといふ説によると、元文元年三月四日初日で豊竹座に上演された、並木宗輔作『和田合戦女舞鶴』の四段目の口で、豊竹河内太夫が、鶴ヶ岡別當阿奢梨が手負の眞似して、追手を欺くといふ條がある、そこを極めて滑稽的におもしろく語り活かしたので大好評をとつた。由來——阿奢梨場と呼ぶべきを、阿を略して『シヤリ場』やがて『チャリ場』に轉訛したといふのだが……如何だか。

◇  
近松の戯曲には、近松の友人で、作者と道化役者を兼ねてゐた金子吉左衛門をモデルにしたやうな、道化役、所謂チャリ役が澤山に

出てくる。——用明天皇職人鑑の三段目——に飯焚の女中（道明寺の白拍子に擬した役）が出て来て（この摺子木の太さは、太ふてもさまばつかり」と云ふところで満場を笑はしたり。——冥途の飛脚の飛脚屋の下女。新口村の忠三の女房、と云つたやうな類がたゞてし一曲に必ず一人は出てくる。

三世長門の腰巾着と云はれた竹本多満太夫もチャリ語りの上手で（淨瑠璃の作もした人）師匠長門との合作『花雲佐倉曙』の渡し場の滑稽なども随分評判になつたものだが、山城掾のやうなチャリ専門の太夫が出てから、大いにチャリ味が宣傳され、素人の天狗仲間にもチャリ語りの専門が盛んに出た。明治維新といふ不安なゴツ／＼した時代だつたから。却つて滑稽味が要求されたのかも知れないともかくも大流行になつてゐた。

心齋橋八幡筋、饅頭屋の主人、竹本布袋軒、が明治以前に名があつた。北新地置屋の主人花富。上町の嶋菊。など聞えた人々で、チャリ専門で一流の人には、半眠齋、石工の清水、松屋町の白鳳、堀江の吉玉齋、幸町のサカイに不龍軒など錚々たるもので、語り物は——膝栗毛——戀女房稽古屋——持丸長者——川口八景——平假名辻法印——國性爺唐へ宿替——三國關所奴の請狀——等。



五代彌太夫が、帶屋の儀兵衛や長吉、引窓の二人侍、白木屋の丈八、お柴久松のめし椀、同あいたし小助、桶どんぶりこの落武者

などを語ると、他に眞似手のない滑稽味があつたといふが、それどころではない、一面大いにチャリ語りの名人で、新作滑稽淨瑠璃が十三種の多數に上つてゐるくらいで、彌太夫の世に隠れたる持ち藝の半面を窺ふことが出来る。その自作になる滑稽淨瑠璃は。

- 國事犯兵衛伊勢參宮 —— 日本全勝観からくり —— 猫戀風雅妾宅 —— 團平
- 最期口寄 —— 名人極樂話 —— 西洋盡し嬉野周丹の歎落 —— 璃寛仁左衛門雀右衛門
- 最後譚 —— 實川延三郎冥途の乗込 —— 五代友厚、實川延若冥途斬 —— 日露戰記九

彌太夫の弟にあたる人に、素人チャリの上手として知られてゐた堀江の『彌々子』がある。その妹のお傳といふのが又女チャリ語りとして異彩を放つたもので、彌太夫作の『猫戀風雅妾宅』の猫争ひが得意で、これを語ると近所の猫が皆集まつて來て鳴いたといふ、世人稱して猫傳といふ名物女があつた。

チャリ語りの素人として、古今に絶した名物男、を一人紹介する。誰れあらうそれは、安永から文政へかけて狂畫で名高い耳鳥齋、松屋平三郎のことである。酒造家から骨董家になつた此人は、奇矯な畫風で、角力や役者の姿を寫し出してゐるが、先天的にユーモアに富んだ性格だつたと見えて、素人淨瑠璃では松平と號してチャリ専門で評判が高い。『音曲鼻けぬき』は彼の著で、畫、文、淨瑠璃の才が渾然として融和されてゐる。

耳鳥齋の畫の天才ぶりを評して、古澗和尚、鳥羽僧正から學んだもの、或は平賀源内の歳時滅法戒の序文に書いた通り『虚無』から來たもの、いろ／＼理窟がましく説かれてゐるが、狂畫の才があつて、チャリ淨瑠璃を語る彼れが、人形芝居に登る諸種の人形の動きや、形に直接感化を受けぬ筈はなく、彼の作畫のお手本が、このあたりから生れて出たのではあるまいかと云ふ私の憶説も、まんざら虚無でもないと思ふ。



耳鳥齋素人淨瑠璃の畫

淨瑠璃三業仲間規則

夫れ今學校を創立して幼児を導き婦女に教ふるものは人智を進ましむる也公園を開設して花樹を植え香草に培ふものは人心を樂しましむる也此盛擧たるや二つながら歐米各國の法に則る彼の孜孜汲々たる學務の勞を醫するに此愉々快々たる公園を設く衛生の法至れりさいふべし